

薬師如来像

この薬師如来の坐像が制作されたのは奈良時代（710～794 年）であり、国宝に指定されている。日本における乾漆技法による仏像としては最大級のものである。とくに薬師如来は、いろんな病いを治癒してくれる仏として信仰され、その願いが叶うと、自分が大事にしている身近な刀や鏡といった供物を捧げた。この仏像には、そうした数多くの供物が捧げられてきたが、それはこの像に対する信仰の強さとその効力のあったことを表している。なお左手には小さな壺を持っており、これには妙薬（万能薬）が入っているとされる。